

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」

総括表

2024.3.12

法人名	社会福祉法人 苗場福祉社会	代表者	湖山 泰成	法人・ 事業所 の特徴	法人：法人設立30年を経過。「より地域に密着して、より広域に」を目指し、新潟県を拠点に埼玉、千葉、群馬事業部と事業展開し大きな法人に成長している。法人の理念は「自らを受けたい」という医療と福祉の創造。 事業所：住み慣れた自宅での生活が継続できるように、お客様個々のニーズにあわせサービスを提供しています。単身及び高齢者世帯が増加する中、生活の中での心配事や困り事に寄り添い在宅生活を支えられるように努めています。短時間でも自宅まで送迎するようにご支援しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 マロニエ	管理者	高橋 舞子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	2人	2人	1人	人	2人	1人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	午後からのミーティングの継続。モニタリングは仕組み作りを継続する。書式ややり方は模索しながらより良い方法を探っていく。	・毎日のミーティングが定着し、稼働率や運営基準もチーム全体で確認している。 ・個別の気づきやインシデントも検討し、翌日には対応策を周知できるようになってきた。申し送りはその日の内にPCへ入力し翌日の出勤者へも前日の決定事項がわかる仕組みになっている。会議も全員が参加できるように3日間実施している。	(地域) 会議を3回に分けて色別で、そこまですているんだと思う反面情報量が多くて混乱しないかと心配です。 (包括) 積極的に地域や他機関と関わろうという施設がみられて相談しやすい。運営会議だけでは日頃の状況や空き状況がわからないので、(月1回程度)情報があるとありがたい。ホームページで空き情報がわかるとうい。 相談担当が多忙で新規相談のタイミングが合わない場合がある為、不在時の対応を検討してほしい。 来客への挨拶がきちんとなさっていて気持ちがいい	①部署会議は複数回の実施やオンライン参加も導入してなるべく情報が分散しないように工夫を重ねる ②個別の対応の強化 ③ホームページの工夫(情報開示での空き情報の更新)・広報誌発行 ④管理者とケアマネを一人ずつ配置する(令和6年4月1日より)
B. 事業所のしつらえ・環境	季節の装飾。担当を決めてより組み。掲示スペースの作成。テラスを有効活用し喫茶スペース等に活用する。フロア内に花や植物を増やす。	・季節の装飾を皆で作成したりする取り組みができなかったが、外出やイベントの際は写真撮影し掲示した。 ・施設内の観葉植物は水差しをして増やした	(地域) 季節のものも飾ってあり良かったです。 (包括) テレビの位置が利用者の視線にしては低いので工夫できるといいと思います。利用者のことを考え施設環境も整えているところがいい。職員の接遇が徹底されている。	①食席とテレビの位置や高さの工夫を実践する。 ②季節の装飾を利用者と一緒で作成する(子供じみたものにならないよう工夫)
C. 事業所と地域のかかわり	担当者会議に地域の方が参加できるケースは声掛けをしてプランにも取り入れる。家族へ了解を得て、一人暮らしの方の行動パターンを探り、立ち寄りポイントの商店などへ挨拶などを行いつながりを作る。	・一人暮らしの方へは、最初に家族と相談し挨拶し支援開始を伝えた。灯油の購入声掛けやゴミ捨ての支援を協力してもらっている。長期間宿泊で自宅を空けるときにはご近所へも声掛けをして心配のないようにしている。	(マロニエ) 一人暮らしの方へは、最初に家族と相談し挨拶し支援開始を伝えた。灯油の購入声掛けやゴミ捨ての支援を協力してもらっている。長期間宿泊で自宅を空けるときにはご近所へも声掛けをして心配のないようにしている。 (包括) 地域の方とは日頃から交流されており、いざというときの支援に役立てられているところが素晴らしい。事例検討会や個別ケア会議等が開催できると尚いい 積極的に地域や他機関と関わろうという施設が見られて相談しやすい	①困難ケースの事例検討会の実施 ②地域行事をくりの木スペースを利用し開催するなど地域との合同企画の実施 EX：防災訓練・煙体験・夏祭りなど
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	感染対策を徹底し外出企画を立案していく。訪問支援や・通いの送迎時にはご近所への挨拶を徹底していきます。	・実際の災害時令和6年1月1日には地域に避難している利用者を地域と家族と連絡を取り合い、くりの木へ避難しれもらった。地域住民による共助もあり一人暮らしの方の見守り体制を確認できた。	(包括) 来客への挨拶がきちんとなさられていて気持ちがいい (マロニエ) 利用者のご自宅の近所の方へは知らなくても「こんにちは」とあいさつしています。久しぶりに会う方など銀行や商店等で話が弾むこともあります。今後は家族や地域への広報誌の発行もしていきたい。	①認知症カフェの定期開催 ②家族交流会など家族同士がケアの悩みやどのように在宅介護をしているかを意見交換できる場を作りたい
E. 運営推進会議を活かした取組み	夕方の下校時の小学生の見守りなどは散歩しながら対応できるようにグループホームとも協力しながら地域へ出ていく。駐車場にベンチを置きそこで夕涼みをしている見守りの実施。	実際の送迎見守り支援はできなかったが、沼垂小学校4年生との交流は定着した。また、認知症サポーター養成講座も企業向けに開催。小規模の取り組みを地域ケア会議などで報告させていただいたり、この会議を通じて各方面からの認知症ケアの取り組みを地域へ配信できたと思う。	(管理者) 沼垂小学校4年生の福祉授業や企業のサポーター養成講座はこの場からのつながりです。 (地域) いまここの地域の行事がコロナ禍より開催していないです。 (管理者) この施設の行事を合同で行うことで地域行事が再開できる場にもしてもらいたい。防災訓練や煙体験などもこの駐車場でできるのと一緒にできたらいいですね。	①小学校との交流の継続 ②年に2回は認知症サポーター養成講座の開催
F. 事業所の防災・災害対策	感染対策に留意して法定の避難訓練は規定通り実施する。運営推進会議の中で地域の方へ施設の非常口や構造を知っていただく機会を作る。	防災訓練は法定通りの2回実施した。が地域住民の参加型はできなかった。夜間想定ではグループホームとの連携が課題となった。津波での水害想定の実施し、スムーズに2階以上へ避難できた。	(地域) 1月の地震のことも踏まえ手有事の際にはくりの木さんへ避難して良いことを住民へ伝えていきます。 (包括) なにかあったらくりの木へということが地域に伝えているのはとても良い	①地域参加の避難訓練の実地 ※消火器訓練 ※煙体験 ②利用者居住地区の民生委員の把握と連携